

沖縄語名護饒平名方言の焦点構造とモーダルな文のタイプ

狩俣繁久（琉球大学）

要旨

沖縄語の名護市饒平名方言，同久志方言，恩納村仲泊方言の話し合いの中に現れる疑問詞質問文，肯否質問文，確認要求文，疑い文，叙述文に含まれる焦点助詞（=ルと=ガ）と疑問詞を検討し，焦点助詞が文末述語の形式を支配していないこと，焦点助詞と呼応すると言われていた文末のル形の用法について論じる。合わせて話し合いの構造から離れた文に現れる=ルの限定，新情報の提示，排他の用法についても論じる。

1. 先行研究

琉球諸語には係助詞があり，文末述語との間に支配・被支配の関係（係り結び）が活きているといわれていたが，狩俣（2011）が沖縄語今帰仁方言のドゥ，ガ，クセー，同那覇方言のドゥ，ガ，宮古語平良方言のドゥ，ガ，ヌ，八重山語石垣方言のドゥを検討し，係助詞と文末述語との間に支配・被支配の関係が無く，その機能が焦点化なのでこれを焦点助詞と呼ぶことを論じている。

本稿では，沖縄語の名護市饒平名方言，同久志方言，恩納村仲泊方言の話し合いの中に現れる疑問詞質問文，肯否質問文，確認要求文，疑い文，叙述文に含まれる=ルと=ガと疑問詞を検討し，=ルと=ガが文末述語の形式を支配していないこと，=ルと呼応すると言われていた文末のル形の用法について論じる。合わせて話し合いの構造から離れた文に現れる=ルの限定，想定外の新事実の提示，排他の用法についても論じる。なお，焦点化は話者が最も伝えたい情報を示すことであり，=ルや疑問詞で焦点化された情報は未知の情報で，それ以外の情報は既知の旧情報である。

本稿の例文は，「姉さんが東京から来る」「姉さんはいつ来るの？」「明日来る」「姉さんの夫も来るの」「うん，来る」のように具体的な場面を設定し対

話風に並べた調査票を使って得られたものである¹。

2. 饒平名方言のモーダルな文のタイプと焦点構造

話し手に欠けている情報があるとき、ダル（誰）、ヌー（何）、イチ（いつ）等の疑問詞を用いて聞き手に訊ねる。疑問詞には=ガも=ガも付かない。焦点は疑問詞に有り、文末の述語はガ形である。

- (1) A1: ウヌ ウムヤ ダルガ ？ケーガ？
 (この 甘蔗は 誰が 食べるの？)
 B1: ネーネーガル ？ケール。 ワンヤ ？カン。
 (姉さんが 食べるんだ。 私は 食べない。)
- (2) A1: クーヌ ウムヤ ダルガ ニチャーガ？
 (今日の 甘蔗は 誰が 煮たの？)
 B1: ウヌ ウムヤ オッカーガル ニチャル。 ワン アナンドー。
 (その 甘蔗は 母さんが 煮たんだ。 私じゃないよ。)
- (3) A1: ヌーリチ チャーガ？
 (何故 来たの？)
 B1: アワティーヌ ユージューガ アイテートウル チャル。
 アシビンガヤ チー ネン。
 (急ぎの 用事が あったから、 来たんだよ。
 遊びに 来たんじゃないよ。)
- (4) A1: ヌーリチ ？ピージャーシル ？カンガ？
 (何故 ヤギの 汁を 食べないの？)
 B1: ワタガ ヤミテートウル ？カントル。
 (お腹が 痛かったから、 食べなかったんだよ。)
- (5) A1: クーヌ ヒティミティムヌヤ ヌー ？カータガ？
 (今日の 朝飯は 何を 食べたの？)
 B1: スブイ ？カータン。

¹方言表記にカタカナを用いる ²ヤ, ²ム, ²ティは喉頭音化した子音を含む音節を表す。

(冬瓜を 食べた。)

肯否質問文は=ルを含まない。述語はン形にナーを付ける。

- (6) A1 : シジャガ ?ケータンナー? ソーイーナー?
(兄さんが 食べたの? 本当なの?)
B1 : シジャヤ ミーチン ?ケータン。
(兄さんは 三つも 食べよった。)
- (7) A1 : ヤマトウン チュン ナベラ ?ケンナー?
(本土の 人も ヘチマを 食べるの?)
B1 : ンーンンー, ヤマトウン チュヤ ナベラヤ ?カンドー。
(ううん。 本土の 人は ヘチマは 食べないよ。)
- (8) A1 : クーヤ ヌー ニーガ?
(今日は 何を 煮るの?)
B1 : クーヤ キヌー トウタヌ ウムー ニン。
(今日は 昨日 とった 甘藷を 煮る。)
A2 : ウヌ ナビジ ニンナー?
(この 鍋で 煮るの?)
B2 : ンーンンー グナハイトウ ウヌ ナビジヤ ニラン。
(ううん, 小さいから その 鍋では 煮ない。)
- (9) A1 : ネーネーヤ イチ スーガ
(姉さんは いつ 来るの?)
B1 : アチャ スン。
(明日 来る。)
A2 : ネーネーガ ウトウン スンナー?
(姉さんの 夫も 来るの?)
B2 : ウン, スンドー。
(うん, 来るよ。)
- (10) A1 : クーヤ チンクァイ ニランナー?
(今日は 南瓜を 煮ないの?)

- B1 : キヌー ニチェートゥ クーヤ ニラン。
 (昨日 煮たから 今日は 煮ない。)
- (11) A1 : ユービンヤ スータンナー?
 (郵便屋は 来たの?)
- B1 : ユービンガ スーテートゥ=ル ティガミヌ アンドー。
 (郵便屋が 来たから, 手紙が あるんだよ。)

確認要求文は=ルを含まない。述語は, ラヤー形である。

- (12) A1 : ?ヤーン バラナ ?ケーラヤー?
 (お前も バナナを 食べるだろう?)
- B1 : ウン ?ケン。
 (うん, 食べる)
- (13) A1 : ?ヤーガ ティンプラー ムル ?カータラヤー?
 (お前が 天ぷらを 全部 食べただろう?)
- B1 : ワンヤ ティーチ=ル ?カータル。
 (私は 一つしか 食べなかったよ。)
- B2 : ヌクトウイヌ ティンプラヤ ムル オッカーガ=ル ?ケートル。
 (残った テンプラは, 全部 母さんが 食べたんだよ。)
- (14) A1 : ワンガ イチェヌ トゥーイ スータラヤー?
 (私が 言った 通り 来ただろう?)
- B1 : ウン キヌー チャーヌ チューガ クーン スータン。
 (うん, 昨日 来た 人が 今日も 来た。)

不確かな情報をさしだす疑い文には, 質問文にある聞き手への働きかけ性がなく, 必ずしも聞き手の答えを求めないが, 近くにいた聞き手が答えることがある。疑い文には疑問詞を含む文と疑問詞を含まない文があるが, いずれも述語はガヤー形である。疑問詞を含む疑い文の焦点は疑問詞にある。疑問詞に焦点があるのは疑問詞質問文と同じである。

- (15) A1 : ヌーリチ フンタガヤー。
 (何故, 来なかったのかなあ。)
 B1 : クトウシヤ ボーフーガ ウポハイテートウ=ル フンタル。
 (今年は 台風が 多かったから, 来なかったんだよ。)
- (16) A1 : ダルガ クァーシ ?カータガヤー。
 (誰が 菓子を 食べたのかなあ。)
 B1 : クァーシヤ ウットウガ ?カータラハジ。
 (菓子は 妹が 食べただろう。)
- (17) A1 : ダルガ チンクァイ ニチャガヤー。 マーハイサー。
 (誰が カボチャを 煮たのかなあ? おいしいなあ。)
 B1 : ウヌ チンクァイヤ オッカーガ ニチャラハジ。
 (その カボチャは 母さんが 煮ただろう。)
- (18) A1 : タカヤ クトウシヤ ヌーリチ フンタガヤー。
 (サシバ, 今年は 何故 来なかったのかなあ。)
 B1 : クトウシヤ ボーフーガ ウポハイテートウ=ル フンタル。
 (今年は 台風が 多かったから, 来なかったんだよ。)
- (19) A1 : ウマニ ウチェタヌ ?ユーヤ ダルガ ?ケータガ?
 (そこに 置いた 魚は 誰が 食べたの?)
 B1 : イングァーガ ?ケータガヤー。
 (犬が 食ったのかなあ。)
 C1 : トウネーヌ マヤガ ?ケータラハジ。
 (隣の 猫が 食ったのだろう。)
- (20) A1 : デークニン マジュン イリテイ ニランガヤー。
 (ゴボウも 一緒に 入れて 煮ないかなあ。)
 B1 : グンボーヤ ニランラハジ。
 (ゴボウは 煮ないだろう。)

叙述文の述語には=ルが無くン形の文(1B1), =ルが有ってル形の文(3B1), =ルが無くル形の文(6B1), =ルが有ってン形の文(7B2)がある。=ルは述語の形式に影響を与えていない。

疑問詞を用いる疑い文と疑問詞を用いず不確かな情報に=ルが後接する疑い文がある。述語はいずれもガヤー形である。疑問詞質問文と同じく疑問詞のついた情報を焦点化する。

- (21) A1 : オットーン バラナ ?ケーガヤーヤー。
 (父さんも バナナ 食べるかなあ。)
 B1 : オットーン ?ケーラハジドー。シチ エットウ。
 (父さんも 食べるだろう。好きだから)
- (22) A1 : デークニン マジュン イリティ ニランガヤー。
 (大根も 一緒に 入れて 煮ないかなあ。)
 B1 : グンボーヤ ニランラハジ。
 (ゴボウは 煮ないだろう。)
 B2 : アンスン。シカントウ=ル ニランル。
 (そうか。好きじゃないから、 煮ないんだ。)

叙述文の述語には=ルが無くン形の文 (14B1, 12B1), =ルが有ってン形の文 (11B1), ミルが有ってル形の文 (1B1, 2B1 等) がある。数は少ないが, =ルが有ってン形の文の存在することは他の方言と同じであり, =ルの有無は述語の形式に影響を与えていない。

3. 久志方言のモーダルな文のタイプと焦点構造

話し手に欠けている情報があるとき, ダル (誰), ヌー (何), イトゥ (いつ) 等の疑問詞を用いて聞き手に訊ねる。疑問詞に=ガの付くときと=ガの付かないときがある。=ガの有無にかかわらず焦点は疑問詞に有り, 文末の述語はル形である。ル形は, 語末がヌになる連体形とは形が異なる。

- (23) A1 : クヌ マームヤ ダルガ カミル?
 (この 里芋は 誰が 食べるの?)
 B1 : マーマーガ カミン。
 (姉さんが 食べる。)

- (24) A1 : チューヌ マームヤ ダルガ=ガ ニチャル?
(今日の 里芋は 誰が 煮たの?)
B1 : ウヌ マームヤ アンマーガ ニチャン。
(その 里芋は 母さんが 煮た。)
- (25) A1 : キンヌートウ チュー イトウ=ガ ヤーハル?
(昨日と 今日 いつが ひもじいの?)
B1 : チューヌ=ル ヤーハル。
(今日が ひもじい。)

肯否質問文には=ルを含む文と含まない文がある。いずれも述語はン形である。肯否質問文(26A2, 27A2)のン形は叙述文(26B1, 27B2)のン形と同音だが、肯否質問文のン形は尻上がりのイントネーションで発せられる。=ルは、複数の候補の中から話し手が確認したい未確認の情報に付く。

- (26) A1 : チューヤ ヌー=ガ ニール?
(今日は 何を 煮るの?)
B1 : キンヌー フタヌ ?ムー ニン。
(昨日 掘った 甘藷を 煮る。)
A2 : クヌ ナウイッチ=ル ニン?
(この 鍋で 煮るの?)
B2 : ンー, グマハクトウ ウヌ ナウイッチヤ ニラン。
(ううん, 小さいから その 鍋では 煮ない。)
- (27) A1 : マーマヤ イトウ=ガ チュール?
(姉さんは いつ 来るの?)
B1 : アチャー チュン。
(明日 来る。)
A2 : マーマヌ 'ウトウンゲ チュン?
(姉さんの 夫も 来るの?)
B2 : ンー, チュン。
(うん, 来る。)

- (28) A1 : チューヤ ナンクァ ニランナルアン?
 (今日は 南瓜を 煮ないの?)
 B1 : キンヌー ニチャクトウ チューヤ ニランナル。
 (昨日 煮たから 今日は 煮ないんだ。)

確認要求文には=ルを含むものと含まないものがある。述語は=ルの有無にかかわらずラヤ形である。=ルは確認したい未確認の情報に付く。

- (29) A1 : [?]ヤーガ=ル ティンプラ ムヌ カダラヤー?
 (お前が 天ぷらを 全部 食べたらう?)
 B1 : ワヌヤ [?]ティチ=ル カダンドー。
 (私は 一つしか 食べなかったよ。)
 B2 : ヌクタヌ ティンプラヤ アンマーガ=ル カミタンドー²。
 (残った テンプラは, 母さんが 食べたんだよ。)
- (30) A1 : ワーガ イチャーヌ トゥーイ チュータラヤー?
 (私が 言った 通り 来たらう?)
 B1 : ンー, キンヌー チョータヌ チューガ チュンゲ チャン。
 (うん, 昨日 来た 人が 今日も 来た。)

不確かな情報をさしだす疑い文には、質問文にある聞き手への働きかけ性がなく、必ずしも聞き手の答えを求めないが、近くにいた聞き手が答えることがある。疑い文には疑問詞を含む文と疑問詞を含まない文があるが、いずれも述語はカヤ形である。疑問詞を含む疑い文には疑問詞に=ガを付ける文(31A1)と付けない文(32A1)があるが、=ガの有無にかかわらず焦点は疑問詞にある。疑問詞を含まない疑い文には、=ルを後接させた文(34B1)と=ルも疑問詞も含まない文(33A1)がある。疑問詞と=ルの付いた情報に焦点があるのは疑問詞質問文、肯否質問文と同じである。

²ドーは終助詞でン形に後接し聞き手利益への配慮があることを表す。

- (31) A1 : ヌーディチ=ガ クンナタッカヤー?
(何故, 来なかったのかなあ。)
B1 : クンドウヤ ウーカディヌ ウポハクトウ=ル クンナタル。
(今年は 台風が 多かったから, 来なかったんだよ。)
- (32) A1 : ヌーディチ ネンナタッカヤー?
(何故 無かったのかなあ。)
B1 : ウットウヌ カデクトウ ネンナテル。
(弟が 食べたから 無かったんだよ。)
- (33) A1 : グンボーンゲ マンナナ イッティ ニラッカヤー。
(ゴボウも 一緒に 入れて 煮ないかなあ。)
B1 : グンボーヤ ニランナヌ ファドゥ。
(ゴボウは 煮ないだろう。)
- (34) A1 : ウマケ ウチャヌ ユーヤ ターガ カダル?
(そこに 置いた 魚は 誰が 食べたの?)
B1 : イヌガ=ル クァータガヤー。
(犬が 食ったのかなあ。)
C1 : トウナイヌ マヤーガ=ル クァータヌ ファドゥ。
(隣の 猫が 食ったのだろう。)

叙述文の述語には=ルが無くン形の文(23B1),=ルが有ってル形の文(25B1),=ルが無くル形の文(28B1),=ルが有ってン形の文(29B2)がある。=ルは述語の形式に影響を与えていない。

4. 恩納村仲泊方言

肯否質問文は, 確認したい情報に=ルを付ける。=ルの有無にかかわらず述語は叙述形と同音のン形とンナー形である。二つは入れ替えられる。

- (35) A1 : ヤーガ=ル フテーン? / フテーンナー?
(君が 掘ったの?)
B1 : ワーガ=ル フテンドー。

(私が 掘ったんだよ。)

(36) A1 : アバー ウトゥン チューン? / チューンナー?

(姉さんの 夫も 来るの?)

B1 : イー, チューン。

(うん, 来る。)

疑問詞質問文は焦点助詞を含まない。焦点は疑問詞にある。述語は肯否質問文と同じン形とンナー形がある。二つは入れ替えられる。

(37) A1 : タルガ アイチェン? / アイチェンナー?

(誰が 言った?)

B1 : ワー アイチェン。

(私が 言った。)

(38) A1 : チューヌ ヒティミティ ヌー カデーン? / カデーンナー?

(今日の 朝飯は 何を 食べたの?)

B1 : スブイ カデーン。

(冬瓜を 食べた。)

仲泊方言のン形は叙述文、肯否質問文、疑問詞質問文に現れ、ナー形は肯否質問文、疑問詞質問文に現れる。=ルや疑問詞が述語の形式の違いに関与しないこと、ン形が叙述文と質問文に現れること、肯否質問文と疑問詞質問文の述語が同じ形式であることは仲泊方言の特徴である。

確認要求文は、=ルを含む文と含まない文がある。述語はいずれもラヤー形である。=ルは確認したい未確認の情報に付く。

(39) A1 : [?]ヤーガ=ル テンプラーヤ ムル カダラヤー?

(お前が 天ぷらを 全部 食べただろう?)

B1 : ワンノー ティーチ=ル カデーンドー。

(私は 一つしか 食べてないよ。)

(40) A1 : ワーガ イチェーヌ トゥーイ チョータラヤー?

(私が 言った 通り 来ただろう?)

B1: ンー, チヌー チョータヌ チュガ チューン チョータン。

(うん, 昨日 来ていた 人が 今日も 来た。)

疑い文には疑問詞を用いる疑い文と疑問詞を用いない疑い文がある。いずれも述語はガヤー形である。疑問詞を用いる疑い文は疑問詞によって未確認の情報が差し出される。疑問詞を用いない疑い文は、=ルを付けた部分に未確認の情報が差し出される。疑問詞質問文、肯否質問文と同じく疑問詞と=ルのついた情報を焦点化する。

(41) A1: ターガ チンクァー ニチェーガヤー?

(誰が カボチャを 煮たのかなあ?)

B1: ウヌ チンクァーヤ アンマーガ=ル ニチェーン ハジドー。

(その カボチャは 母さんが 煮ただろう。)

(42) A1: チャーチャーン バナナー カミガヤー。

(父さんも バナナ 食べるかなあ。)

B1: チャーチャーン カミン ハジロー。

(父さんも 食べるだろう。)

(43) A1: グンボーン マンナ イッティ ニランガヤー。

(ゴボウも 一緒に 入れて 煮ないかなあ。)

B1: グンボーヤ ニラン ハジドー。

(ゴボウは 煮ないだろう。)

B2: グンボーヤ シチェー アランクトウ=ル ニランドー。

(ゴボウは 好きじゃ ないから, 煮ないんだよ。)

叙述文の述語には=ルが無くン形の文 (38B1, 40B1), =ルが有りン形の文 (35B1, 39B1) がある。=ルの有無と述語の形の繋がりはない。

5. 3方言のまとめ

3方言の焦点助詞と疑問詞の有無をモーダルなタイプごとに整理すると次

表のようになる。

第1表 3方言のモーダルなタイプと焦点化

| | | 饒平名方言 | 久志方言 | 仲泊方言 |
|--------|-------|-------|------|--------|
| 叙述文 | =ル無 | ン | ン | ン |
| | =ル有 | ン, ル | ン, ル | ン |
| 肯否質問文 | =ル無 | ンナー | ン | ン, シナー |
| | =ル有 | —— | | |
| 疑問詞質問文 | =ガ無 | ガ | ル | —— |
| | =ガ有 | —— | | |
| 疑い文 | 疑問詞ガ無 | ガヤー | カヤー | ガヤー |
| | 疑問詞ガ有 | —— | | |
| | =ル無 | ガヤー | | |
| | =ル有 | —— | | |
| 確認要求文 | =ル無 | ラヤー | ラヤー | ハニ |
| | =ル有 | —— | | |

- (a) =ルは3つの方言の叙述文、久志方言と仲泊方言の疑い文、確認要求文、肯否質問文に現れる。
- (b) 肯否質問文の述語は、=ルの有無にかかわらず久志方言がン形で、饒平名方言がンナー形で、仲泊方言がン形あるいはンナー形である。
- (c) 確認要求文の述語は、=ルの有無にかかわらず、久志方言と饒平名方言がラヤー形で、仲泊方言がハニ形である。
- (d) 疑問詞を含まない疑い文の述語は、=ルの有無にかかわらず、久志方言がカヤー形で、饒平名方言と仲泊方言がガヤー形である。
- (e) 疑問詞質問文の述語は、久志方言がル形で、饒平名方言がガ形で、仲泊方言がン形あるいはンナー形である。久志方言は疑問詞に=ガが付くが義務的ではない。饒平名方言も仲泊方言も=ガは付かない。
- (f) 疑問詞を含む疑い文の述語は、久志方言がカヤー形で、饒平名方言と仲泊方言がガヤーである。久志方言は疑問詞に=ガが付く。饒平名方

言も仲泊方言も=ガは付かない。

- (g) 疑問詞質問文も疑い文も疑問詞を含むが、述語の形式は異なる。
- (h) =ルを含む叙述文は、ル形になることもル形以外の形式になることもある。ル形は叙述文の述語に現れるが、=ルは義務的ではない。
- (i) =ガは、久志方言の疑問詞質問文と疑問詞を含む疑い文に現れる。
- (j) 述語に現れるル形は、3方言ともに又形の連体形と形式が異なる³。
- (k) =ル、=ガ、疑問詞は、3方言ともに述語の形式に影響を与えておらず、支配・非支配の関係は認められない。

饒平名方言，久志方言，仲泊方言の検討結果は，琉球諸語に関するかりまた（2011：79）の「焦点化助辞のはたらきと文のモーダルな意味を表現する述語形式が独立している」という考え，古代日本語に関する山田健三（2004：15）の「係り助詞（I・II）は，述部の諸活用形に選択されて出現し，原則としてそこに義務的な関係はない」という考えを支持する。

話し手Aにとって未確認のことがらがあるとき，確認したい情報を表す部分に=ルをつけて話者Bに訊ねる。欠けている情報があるとき，疑問詞を用いて話者Bに訊ねる。話者Bは話者Aが確認したかったことがらに=ルをつけて叙述文で伝える。疑問詞質問文と疑問詞を含む疑い文は，疑問詞に焦点があるので，=ガも義務的ではないし，=ルも現われない。=ルあるいは疑問詞を含む文における焦点化は，未確認の情報，欠如した情報，新情報などの未知の情報を示すことであり，焦点化されない部分は確認済みの既知の情報である。

質問文，確認要求文，疑い文の焦点範囲を決めているのは，発話場面における質問者の質問の動機である。先行する発話者の質問内容が回答者の発する叙述文の焦点範囲を決める。発話者＝質問者が何を知りたいかが一義的に存在し，回答者は質問者の知りたいことを察知して質問者の知りたいことがらに焦点助詞を付けるのである。

³仲泊方言は那覇方言と同じ沖縄中南部方言に属するが，連体形とル形が異なる。

6. =ルのその他の用法

3方言の=ルには焦点化の他に限定（特立）、想定外の新事実の提示、排他の用法がある。

(44) ~ (48) の=ルは限定（特立）の用法である。これを「少しだけ」「家族だけ」と日本語訳できるが、それぞれの方言の=ルをとりたて助詞「ビケーン、ビカーン（だけ）」に置き換えることはできない。また、「しか」に相当するとりたて助詞も確認できない。

- (44) ウピ=ル ニチャシガ ヤパラサク ナトゥン。饒平名
 (少ししか 煮なかったのに 柔らかく なっている。)
- (45) オバーガ トウシウイ エッテヌ クトウヤ ヤーニンジュガ=ル
 ワカイタル。饒平名
 (おばさんが年上だったことは、家族しか 知らなかった。)
- (46) ウピ=ル ヌドゥイシガ ウイティ ネン。饒平名
 (少ししか 飲んでいないのに、酔って しまった。)
- (47) イッテミ=ル ニチャスガ ヤファラク ナトン。久志
 (少ししか 煮なかったのに 柔らかく なっている。)
- (48) イットウチ=ル ニランソーティ ヤファラカク ナトーン。仲泊
 (少ししか 煮なかったのに 柔らかく なっている。)

=ルは想定外の新事実を表す文の新情報に付く。述語のル形は義務ではない。

- (49) A1 : エー オバーガ=ル トウシウイ エッテサヤ。饒平名
 (へえ、おばあさんが 年上だったんだ。祖父母の年齢を聞いて)
- (50) A1 : アー、 クマケ=ル アーテル。久志
 (ああ、ここに あったんだ。想定外の場所で財布を見つけて)
- (51) A1 : アータン！ クマケ=ル アーテッサヤー。久志
 (有った！ ここに 有ったんだ。(台所で鎌を見つけて))
- (52) A1 : ヘー タローヌ クルマヤ クルー=ル ヤテーハヤー。仲泊

- (へえ 太郎の 車は 黒かったんだ。初めて太郎の車を見て)
 (53) A1 : へー パーパーガ=ル シージャ ヤテーハヤー。 仲泊
 (へえ, おばあさんが 年上だったんだ。祖父母の年齢を聞いて)

次の(54)(55)(56)(57)は主格助詞-ヌ, -ガに=ルの後接した-ヌ=ル, -ガ=ルを付けたチュー(今日), アバー(姉さん), アンマー(母さん)が特立され, キンヌー(昨日), ワン(私)が排除されている。この-ヌ=ル, -ガ=ルは, 日本語の「が」と同じ排他を表す。

なお, 疑問詞質問文や肯否質問文に答える叙述文は, =ルを含む文もあるが, 含まない文もあるのだが, 選択的な疑問詞質問文(56A1)の答えの文(56B1)は=ルが有って述語がル形になる。(56B1)はチュー(今日), (54B1)はオッカー(母さん)が焦点化されキンヌー(昨日), ワン(私)が排除されている。

- (54) A1 : クーヌ ウムヤ ダルガ ニチャーガ? 饒平名
 (今日の 芋は 誰が 煮たの?)
 B1 : ムル オッカーガ=ル ニチャンドー。 ワン アナン。
 (それは 母さんが 煮たんだよ。私じゃないよ。)
- (55) A1 : ナビニ アイタヌ スブイヤ ダルガ ニチャガ? 饒平名
 (鍋に あった トウガンは 誰が 煮よったの?)
 B1 : スブイヤ オーバーガ=ル ニン。 フカヌ チューガヤ ニラン。
 (トウガンは おばあさんが 煮るんだ。ほかの 人は 煮ない。)
- (56) A1 : キンヌー トウ チュー イトウ=ガ ヤーハル? 久志
 (昨日と 今日 いつが ひもじいの?)
 B1 : チューヌ=ル ヤーハル。
 (今日が ひもじい。)
- (57) A1 : ウヌ チンヌコー ターガ カミン? 仲泊
 (この 里芋は 誰が 食べるの?)
 B1 : ウリヤ アバーガ=ル カミン。 ワンノー カマン。
 (里芋は 姉さんが 食べるんだ。私は 食べない。)

本節で確認した=ルの限定（特立）、想定外の新事実の提示、排他の用法は、とりたてに関わるものである。話し手が確認したい情報や伝えたい情報を表す部分を焦点化するのはたらきをもつ焦点助詞=ルの焦点化の働きは、とりたての用法の一つの現われである。

=ルは、とりたて助詞-ヤ（は）、-ン（も）と同じく主格助詞-ガ、-ヌを含む全ての連用格の格助詞の後ろに付くが、=ル、-ヤ、-ン同士が前後に付くことはない。情報構造の中での=ルの働きを明らかにするには、名詞述語文も含めた多くの文を検討したうえで、-ガ・ヌ、-ヤ（は）、ハダカ格との対比の中で検討しなければならない。

7. ル形を述語に持つ文

(58B2)は、ンー（うん）が省略されていて、A1の質問を認めたとうえで、煮なかったことの原因が述べられている。B1は=ルが無く述語がル形の叙述文である。(60A2)の叙述文は、=ルが有りなおかつ述語がル形である。A1に対する答えのB1の文からアリ（彼）の家に友人が来ないという結果を導きだしている。(61A3)は、B1の質問に答えたあと、補足的に小学校が有ったことの原因を述べる。(58B1)(60A2)(61A3)の叙述文は、奥田靖雄(2001, 189)が「理由の説明」とよぶ日本語のノダ文と同じ機能を果たしている⁴。

- (58) A1: ?ワッシーガ レイゾーコニ アイシガ ヌーリチ ?ワッシー
ニランタガ?
(豚肉が 冷蔵庫に あるけど、 何故 豚肉を 煮なかった
の?)
B1: キヌーン ?ワッシ ニチュートウ=ル クーヤ ニランタラヤ?
(昨日も 豚肉を 煮たから、 今日は 煮なかったんだろう?)
B1: ウッティーン ?ワッシー エッテートウ=ル キヌーヤ 三

⁴「たずねる文と説明の文との中間に「はい・いいえ」がはいりこんでいて、ふたつの文の文のあいだに直接的なつながりはない。「はい・いいえ」がたずねる文にさしだされる出来事の成立を肯定したり、肯定することの、あるいは否定することの理由をさしだしている」の「説明の文」を「ル形述語の文」に置き換えることができる。

ランタル。

(一昨日も 豚肉だったから、 昨日は 煮なかったんだよ。)

(59) A1 : チューヤ ナンクァ ニランナルアン? 久志

(今日は 南瓜を 煮ないの?)

B1 : キンヌー ニチャクトウ チューヤ ニランナル。

(昨日 煮たから 今日 煮ないんだ。)

(60) A1 : アリヤ ドウシガ チンゲ チャーング イジャサン?

(彼は 友人が 来ても 茶も 出さないの?)

B1 : ンー, ンジャサンドー。久志

(うん, 出さないよ。)

A2 : アッチ=ル タルンゲ クンナテール。

(だから 誰も 来ないんだ。)

(61) A1 : ムカシヤ ソーガッコヌ アータン。

(昔は 小学校が 有った。)

B1 : ダーケ アータル?

(どこに 有ったの?)

A2 : ?ナンマヌ ヤクバヌ チチャクケ アータン。

(今の 役場の 近くに 有った。)

A3 : ムカシヤ ワラインゲ マンドーテクトウ=ル アータル。

(昔は 子供も 多かったから 有ったんだ。)

疑問詞質問文の述語をル形にした文は非難や詰問を表す。話者は「怒ったような言い方」だと説明する。話し合いのなかでル形の文が出てこなかった恩納方言でも非難を表す文ではル形が出てくる。

(62) A1 : ヌーガ ヒージャージロー カマンタル。仲泊

(何故 ヤギ汁は 食べなかったんだ。)

(63) A1 : ヌーガ クーンテール。仲泊

(何故 来なかったんだ。)

- (64) A1 : ヌーガ クァーシ カマンタル。恩納
 (何故 菓子を 食べなかったんだ。)
- (65) A1 : ンーガ カミル。恩納
 (なぜ, 食べるんだ。)

参考文献

- 奥田靖雄(2001)「説明(その4)ー話しあいのなかでの「のだ」ー」『ことばの科学』10, 175-202, むぎ書房:東京.
- 狩俣繁久(2020)「沖縄語那覇方言の焦点助詞と情報構造」『南島文化』42,101~110.
- 狩俣繁久(2019)「琉球語のとりたて表現」『日本語と世界の言語のとりたて表現』, 77-95, くろしお出版:東京.
- かりまたしげひさ(2011)「琉球方言の焦点化助辞と文の通達的なタイプ」『日本語の研究』7(4), 69~81.
- 山田健三(2004)「係り結び(再考)」『国語国文』15-33.